

## 「子どもの事故防止教室」のプログラム

- ・ 中学校の技術・家庭で行う住居の機能と安全な住まい方に関する授業について、建築士を外部講師として導入した場合の授業実施例
- ・ 使用ワークシート：「青森県住まい・住まい方読本」17頁

	担当	項目	内容	時間	留意点等
導入	教員	前時の振り返り	■前時の授業との繋がりについて教員から説明	3分	■本時の前後授業に関連づけることでより学習効果が上がると考えられる。 例)前:住まいの役割と住まい方を考えよう 後:災害に備えた住まい方について考えよう Q2→2012年の統計調査によると、交通事故による死者約6,000人、家庭内事故による死者約19,000人。この要因には、老朽化した住宅で一人暮らしをしている高齢者が増加していることが考えられる。
		本時の目的	(生徒に対する発問例) Q1. 家の中でケガや危険を感じたことはある?それはどんな時? Q2. 家庭内事故で亡くなる人と交通事故で亡くなる人はどちらが多いと思う?  ■本時の授業の目的について教員から説明 住まいは、災害など様々な危険から身を守る働きがあり、私たちは住まいに守られ、安心して暮らすことができる。しかし、住まいのつくり方や住まい方によっては、けがをしったり死亡したりすることもある。 誰もが安心して住めるよう、家庭内事故を防ぎ、安全で快適な住空間の整え方について考える。		
展開	教員	ゲストティーチャー(以下、GT)の紹介	■教員がGTを紹介 ①GTは自己紹介も兼ねて挨拶 ②GTは職業に就いたきっかけや職業の魅力などを交えて自己紹介をする。	5分	■きっかけや魅力も話してもらくと、職業観育成のきっかけとなる。 ■GTは平易な表現(専門用語を避ける)を用いて話す事が望ましい。
	教員	演習① ワークシートを使用した演習	■ワークシートを生徒に配布。 ■ワークシートの①のイラストを用いて、家庭内で注意することを考えさせ、発表させ、必要に応じて板書する。 ■ワークシートの「家庭内事故死の主な原因」の表を用いて、例えば「でき死」はどの年代に多いか等を確認させる。 ■ワークシートの②のイラストを用いて、どこがどのように危険か考えさせ、発表させ、必要に応じて板書する。	15分	■でき死などは高齢者の割合が高くなっている。この要因の1つには「ヒートショック」による心筋梗塞や脳梗塞が考えられる。い
	GT	講演	■家庭内事故の防止策及びユニバーサルデザインについて、実践例を交えて講演。	20分	■手掛けた住宅等を例に、住まい手等の要望や要望に対する工夫点を交えることで理解が深まる。
まとめ	教員	ふりかえり	■GTへの質疑応答 数人の生徒からGTへ質問 ■印象に残った内容、今後に活かしていきたいところ 本時を通して気付いたところ、今後の生活に活かしたいところを考える。 ■GTから全体を講評してもらう GTより発表内容から良かった点や不足していた視点等を助言してもらう。	7分	■GTは生徒の発表内容に否定的にならず、良かった点や「こうするともっと良くなる」といった点を挙げるように努める。